

UWABINO B-site・UWABINO C-site

上日野B遺跡・上日野C遺跡

基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査



2003.3

長坂町教育委員会

UWABINO B-site・UWABINO C-site

上日野B遺跡・上日野C遺跡

基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査

2003. 3

長坂町教育委員会

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、およそ200ヶ所に上る山梨県内でも有数の遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護をはかりつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための文化財保護事業を推進しております。

本書は平成14年度に基盤整備促進事業（日野地区）に伴い発掘調査を実施した上日野B遺跡・上日野C遺跡の調査報告書です。本遺跡からは縄文時代中期の住居跡や土坑のほかに、今次々と姿を消しつつある炭焼き窯跡など、縄文時代から現代に至る我々祖先の生活の痕跡が確認されました。日野地区ではこれまで大きな開発が比較的少なかったことから発掘調査が進んでこなかった経緯もあり、今回の調査は日野地区の歴史をひもといていく一つのきっかけとなることが期待されます。

今回の調査に対しましてご理解並びにご協力を頂きました日野地区の方々に感謝申し上げます。

本書が地域の方々を含め多くの方々のお役に立てれば幸いです。

2003年3月

長坂町教育委員会
教育長 小尾 章臣

例　　言

凡　　例

1. 本書は、2002（平成14）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町日野地内に所在する上日野B遺跡・上日野C遺跡の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、基盤整備促進事業（日野地区）に伴う事前調査であり、長坂町役場産業課より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3. 本書の執筆・図集は、長谷川誠（長坂町教育委員会非常勤職員）が行った。

4. 発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託した。

基準点測量・航空測量（株）シン技術コンサル

5. 遺構・遺物の写真撮影は長谷川が行った。

6. 本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

7. 発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。

間間俊明（韮崎市教育委員会）

1. 掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構　調査区全体図：1/300

住居跡・竪穴状遺構：1/60

炉：1/30

土坑・石組遺構：1/30

遺物　縄文土器：1/3 または1/4

黒曜石製剥片石器：2/3

それ以外の石器：1/3

土師器・須恵器：1/3

古鏡：2/3

2. 遺構図版中の遺物分布図のマークは各図版中に示してある。

3. 遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

黒色土器 須恵器

石器作業面

これ以外のものについては、各図版中に示してある

4. 拓影図で画面を載せてあるものは、断面左側が外面、右側が内面である。

5. 遺構および遺物写真的縮尺は統一されていない。

6. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

上日野B遺跡・上日野C遺跡 目 次

序	
例言	
本文目次	
挿図目次	
表目次	
写真図版目次	
第1章 調査の経過と概要	1
第1節 発掘調査に至る経過	1
第2節 発掘調査の概要	1
第3節 基本層序	1
第4節 発掘調査組織	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 上日野B遺跡	3
第1節 遺構と遺物	3
第2節 まとめ	5
第4章 上日野C遺跡	6
第1節 遺構と遺物	6
第2節 まとめ	6
引用・参考文献	6

挿図目次

第1図 上日野B遺跡・上日野C遺跡 周辺の遺跡分布図	7
第2図 上日野B遺跡・上日野C遺跡 周辺の地形と調査区の配置	8
第3図 上日野B遺跡全体図、基本層序、1号溝・2号溝セクション図	9
第4図 上日野B遺跡 1号住居跡	10
第5図 上日野B遺跡 1号住居跡遺物出土状況	11
第6図 上日野B遺跡 1号炭焼き窯、3号～6号土坑	12
第7図 上日野B遺跡 7号～12号土坑	13
第8図 上日野B遺跡 1号組石遺構、1号住居跡出土土器・石器	14
第9図 上日野B遺跡 出土土器・石器（1）	15
第10図 上日野B遺跡 出土石器（2）	16
第11図 上日野C遺跡全体図、基本層序、1号溝・4号溝セクション図、1号土坑	17・18
第12図 遺構外出土土器・石器・古銭	19

表 目 次

第1表 周辺遺跡分布一覧	7
第2表 上日野C遺跡出土土器集計表	19
第3表 上日野C遺跡出土土器觀察表	19
第4表 上日野C遺跡出土石器觀察表	19
第5表 上日野B遺跡出土土器集計表	20
第6表 上日野B遺跡出土土器觀察表	20
第7表 上日野B遺跡出土石器觀察表	20

写真図版目次

図版1 上日野B遺跡遠景（南より八ヶ岳を望む）	
上日野B遺跡全景	
図版2 上日野B遺跡 1号住居跡（南から）	
上日野B遺跡 1号住居跡 石垣	
上日野B遺跡 1号住居跡遺物出土状況①	
上日野B遺跡 1号住居跡遺物出土状況②	
上日野B遺跡 1号住居跡遺物出土状況③	
図版3 上日野B遺跡 1号溝	
上日野B遺跡 1号石組遺構	
上日野B遺跡 1号炭焼き窯	
上日野B遺跡 出土土器・石器	
図版4 上日野C遺跡遠景（東より甲斐駒ヶ岳を望む）	
上日野C遺跡全景	
図版5 上日野C遺跡 1号溝（西から）	
上日野C遺跡 1号溝（南から）	
上日野C遺跡 出土土器・石器・古銭	
作業風景	

第1章 調査の経過と概要

第1節 発掘調査に至る経過

2001(平成13)年度に、長坂町を事業主体とする基盤整備促進事業(日野地区)が始まった。それは、畑地利用再編対策の推進・農地の集積による機械化と省力化等、農業基盤整備を確立することを目的とし、日野地区内の桑畠を中心とした畠地2地区(字上日野地内をI工区・字池之平地内をII工区とする)を対象にした区画整理事業で、それぞれの面積は約10ha・6haに及ぶ。

2001(平成13)年に町産業課から、事業対象地内について埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、教育委員会はI工区において上日野B遺跡・上日野C遺跡、II工区において池之平北遺跡が存在することを回答した。2002(平成14)年度に教育委員会は、上記の遺跡を含め、ほぼ確定した事業対象地内で6~8月にかけて試掘調査を実施(I工区6~7月、II工区7~8月)し、I工区で3ヶ所・II工区で4ヶ所の本調査が必要な範囲を町産業課に提示した。

その試掘調査結果を基に、町産業課と教育委員会が協議し、事業対象地の見直し及び工法の検討により、本調査予定地をI・II工区でそれぞれ2ヶ所に絞り込んだ。I工区では上日野B遺跡・上日野C遺跡それぞれの一部を、II工区では池之平北遺跡の範囲が拡大することが判明し、その内2地区を調査することとなった。また、調査年度に関して協議の結果、I工区は2002(平成14)年度、II工区は2003(平成15)年度となった。

I工区の発掘調査費は、2002(平成14)年9月の長坂町定例議会に補正予算を計上し承認を得た。同年10~11月の桑等の伐採作業が終了後、同年12月3日に上日野B遺跡の発掘調査を開始し、同年12月26日に終了した。2003(平成15)年1月7日に上日野C遺跡の調査に移り、同年2月7日に終了した。

第2節 発掘調査の概要

本調査予定地は、上日野B遺跡においては1,530m²であり、上日野C遺跡においては1,325m²であった。

調査区に発掘調査・遺構測量の基準として10m間隔のグリッドを設定し、上日野B遺跡については南西端を原点として東から西方向に1~9、南から北方向にA~Gとグリッド番号を付け、同じように上日野C遺跡についても南西端を原点として、東から西方向に1~9、南から北方向にA~Eとグリッド番号を付けた。

調査は、耕作土が40~50cmほど堆積していたため、始めに重機によりこれらの耕作土を除去した。その後は人

力で丁寧に遺構面の精査を行い、調査を進めていった。遺物は原則として光波測量機で出土原位置を記録しながら取り上げていった。遺構を確認した後は、その遺構の範囲の中から出土しているものについては、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図・遺物出土状況図等を平板実測あるいは簡易遺方等の手作業により国化していった。また、調査の状況に合わせ、写真撮影を行った。遺構調査の終了後、2×2mのトレンチを新たに12基ほど設定し、旧石器時代の遺物・遺構の確認を行った。

整理作業については調査に並行して平成15年1月より洗浄・注記等の基礎整理を行い、本格的な整理作業を平成15年2月~3月にかけて行った。

発見された遺構は、上日野B遺跡については縄文時代中期中葉の竪穴住居跡1軒、土坑11基、時期不明の溝7条などである。上日野C遺跡については土坑1基、溝5条などである。

第3節 基本層序

ここで上日野B遺跡・上日野C遺跡の基本層序を述べておく(第3図、第11図)。一番上に第1層表土層がある。畑地であったため黒褐色の耕作土である。第2層褐色土層が続き、遺構確認面である第3層褐色土層に続く。第2層と比べ第3層はやや明るい色相である。第4層として黄褐色ローム層が続くが、遺構については第3層で確認が出来た。以下は第5層が御嶽輕石層であるPm-Iであり、第6層はシルトを多く含む黄褐色土層である。赤褐色の粘土層が第7層になるが、第4層以下については遺物は出土しなかった。

第4節 発掘調査組織

調査主体	長坂町教育委員会	
事務局	教育長	小尾章臣 (教育課長事務取扱業務)
	社会教育係長	日向明美
	文化財担当	村松佳幸
試掘担当	村松佳幸	
調査担当	長谷川誠	
発掘作業員	横山栄男	國府田孝吉 秋山かつみ
	小林 裕	小林敏恵 小林立枝
	渡辺早月	大柴富子 煙 梅子
	名取初子	小尾トヨ子 宮原征人
	田中玲子	清水三恵 清水純代
	清井義雄	矢ヶ崎健三
整理作業員	古田光雄	井出仁美

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境

上日野B・上日野C遺跡の所在する北口摩郡長坂町は、山梨県の北西部に位置し八ヶ岳南麓に立地する、南北約18km、東西約6kmの細長い町である。八ヶ岳の山体が崩壊し起きた盆地火砕流によって形成された台地上にあり、標高は北端の八ヶ岳標高岳が頂点で2,786mを測り、南端はJR日野春駅の南側で約490mである。標高1,200m以上が急峻な山岳地帯になっており、それ以下は比較的緩やかな地形となり、八ヶ岳南麓高原や長坂台地、八ヶ岳南麓低地等が広がる。長坂町南端より南は、泥流台地を釜無川と塩川の浸食作用によって形成された通称七里岩と呼ばれる浸食崖が形成されている。

八ヶ岳南麓には、比較的多くの湧水があり、これを水源とする小河川は南流し浸食作用によっていくつもの舌状台地を形成している。台地上は水利が悪いため、豊富な水量の湧水を引いて開発した灌漑用水や灌漑用溜池が数多く、県下で最も溜池の多い地域となっている。また、それを利用した水耕栽培が行われ、古くから八ヶ岳南麓地域でも有数の水田地帯となっている。

上日野遺跡の所在する日野地区は、塩川へ向け東を流れる船川と釜無川へ向け西を流れる大深沢川に挟まれた通称長坂台地と呼ばれる台地の西端に位置しており、釜無川の浸食によってできた急崖にかけて続く緩斜面地である。JR中央線、日野春～長坂駅間が地区の中心を通っており、今回の調査地は線路の西側にある。

第2節 歴史的環境

八ヶ岳南麓は、県内でも有数の遺跡密度の濃い地域である。その中でも長坂町は遺跡が数多く分布し、これまでに210ヶ所ほどの遺跡が確認されている。上日野B・上日野C遺跡の立地する台地上も遺跡が数多く存在し、長坂町内でも遺跡の分布が濃い地域である。しかし日野地区に限ってはこれまで開発が少なかったことから、ほとんど遺跡の調査が行われてこなかった。

長坂上条遺跡は、昭和16年史前学研究所の大山柏氏を中心として初めての学術調査が行われた遺跡である(大山柏他1941)。縄文時代後晩期の配石墓群が発見され、弥生時代の遺物も出土している。2003年に町教育委員会による発掘調査が行われ、古墳時代、平安時代の住居跡が確認されている。

また、現山梨県農試試験場地内にある酒呑谷遺跡は、縄文時代前期から中期にかけての大集落跡である。1994(平成6)～1996(平成8)年と2001(平成13)年に山

梨県教育委員会によって発掘調査が実施され、縄文時代前期～中期の住居跡200軒以上が発見されている(野代1997、保坂1997-1998)。遺物も、縄文時代中期を主体にして早期から後期までの土器・石器が整理箱1,400箱分にものぼる多量の遺物が出土している。それと合わせて古墳時代前期の集落も発見されている。

上日野B・上日野C遺跡周辺でも、いくつかの遺跡が発掘調査されている。北村遺跡からは、古墳時代前期の方形周溝墓5基が発見された(小宮山1996)。広城農道整備に先立ち1994(平成6)～1995(平成7)年にかけて長坂町教育委員会が発掘調査を実施し、方形周溝墓の墳丘がほぼ完全な状態で発見された。

龍角西遺跡は、1997(平成9)、1998(平成10)年に発掘調査が行われている。古墳時代前中期から中期の堅穴住居跡10軒、平安時代の堅穴住居跡7軒、掘立柱建物跡6棟、中世の建物跡2棟などが発見されている。

1991(平成3)年には龍角西遺跡に隣接する龍角遺跡で発掘調査が実施されており、古墳時代中期の住居跡が数軒発見された。八ヶ岳南麓で古墳時代前中期から中期にかけてのまとまった集落の調査例はなく、県内でも特に資料の少ない古墳時代中期の土器編年および集落研究にとって、貴重な資料となった。

原町農業高校前遺跡は、県立北社高校の校舎建設に伴い県埋蔵文化財センターにより、2001(平成13)年に発掘調査された。縄文時代の拠点集落であり、縄文時代中期中葉から後半を中心に100軒以上の住居跡が検出された。土偶が50点以上も出土し、ヒスイの原石などの稀品も確認されている。

釜無川流域では、白州町の根古屋遺跡が良く知られている。釜無川の支流である尾白川右岸の河岸段丘上に位置しており、台ヶ原根古屋地区の圃場整備に伴い1984(昭和59)年に白州町教育委員会によって発掘調査された。縄文時代中期後半を中心として、堅穴住居跡13軒、土坑26基、堅穴式造構1基が検出された。県下でも発見例の少ない縄文時代前期初頭に属する住居址も確認されており、注目される(平野1985)。

同じく釜無川流域では武川村の官闘田遺跡がある。圃場整備に伴い1985(昭和60)年と1986(昭和61)年にかけて武川村教育委員会によって発掘調査が実施された。平安時代を中心に堅穴住居跡94軒、掘立柱建物跡1棟、土坑269基、溝状造構2棟が検出された。78号住居からは「牧口」に書かれた土器片が発見された。本遺跡の周辺には牧原という地名が残り、古代の勅旨牧の一つである糸衣野牧が該地におかれたと考えられてきたが、この説を補強する資料となった。

第3章 上日野B遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 住居跡

1号住居跡

(位置) E-6・7グリッド。

(形状) 東南部だけがやや大きく膨らむが全体的にはやや長径が長い楕円形を呈する。

(規模) 住居跡の長径412cm、短径は377cm、深さは12cm~34cmを測る。

(床面) 石圓炉から柱穴の間にかけて硬化面が認められた。特に北側から東側にかけて明瞭なる硬化面が広がりとして確認された。西側から南側については硬化面が広がりを持たず、点在する様子が確認された。

(施設) 石圓炉が住居中央や北よりも機築されている。長さ10~30cmほどの礫7個を長方形に並べて炉石としている。北端に据えられている炉石は、磨石を転用したものである。炉内覆土からは焼土がほとんど検出されず、火焼面も認められなかった。しかし西側の炉石の下からは、火焼面が検出され、掘り方の内壁も西側から南側にかけては強烈な被熱を受けていることが確認された。掘り方は、東側では炉石の8cmほど外側に作られているのに対し、北側や西側では炉石から20cm以上離れたところから掘り込まれている。

柱穴は6基確認できた(1~6p)。3pと6pの2基のピットについては他の4基のピットと軸がずれることから、おそらく主柱穴は1p、2p、4p、5pの4基になるとを考えられる。また、住居内のピットは以下のとおりである。(数値は長径×短径×深さの順、単位はcm。)

1 p	85.1×72.3×38.2	4 p	43.9×38.3×24.8
2 p	46.5×43.1×34.9	5 p	46.4×40.2×33.5
3 p	50.1×43.1×34.9	6 p	52.7×48.6×19.1

(遺物) 第8図。1~2は縄文時代中期中葉藤内式の土器である。1は胴下半部以下全体の約1/3が欠損している。4単位の波状口縁をもつ。口縁部の下には低隆帯で横円区画文を配置し、さらにその下の縄文帯をはさむように2本の降帯で区画し、中に低隆帯を蛇行させる。それぞれ隆帯の周りには三角押文をめぐらせるところから藤内式でも占手に属するものであろう。2は下半部以下全体の1/2が欠損している。胴部はパネル文により区画されており、区画内には縄文を充填した後玉抱き三爻文を施している。3は中期中葉の底部である。胴部から底部にかけての折れが緩やかなことから、井戸尻式まではくだらないであろう。4は綾杉文が施された曾利IV式

である。石器は打製石斧1点、横刃形石器1点、楔形石器1点、ドリル1点の4点である。

(遺物出土状況) 遺物量は少ない。土器については、破片資料をあわせても、6個体の土器しか出土していない。1は、住居中心付近の床面から覆土上面にかけて出土しており、およそ住居覆土第1層のなかから出土していることから、住居廃絶後埋没していく過程で廃棄されたものと考えられる。

(時期) 出土土器より縄文時代中期中葉の藤内式期と考えられる。

(備考) 炉について、火焼面をもつ炉から石圓炉へと作り変えたものと考えられる。

1. 土坑

3号土坑

(位置) D-4グリッド。(形状) 基本的には円形であるが一部袋状を呈する。(規模) 長径96.1cm、短径89.8cm、深さ56.3cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 1号炭焼き窯に伴うものと考えられることから現代のものである。(備考) 覆土内は1号炭焼き窯からかき出されたと思われる炭化物や灰が大量に検出された。

4号土坑

(位置) D-4グリッド。(形状) 円形を呈する。(規模) 長径39.3cm、短径89.8cm、深さ37.5cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 1号炭焼き窯に伴うものと考えられることから現代のものである。(備考) 覆土内からは1号炭焼き窯からかき出されたと思われる炭化物や灰が大量に検出された。

5号土坑

(位置) E-7グリッド。(形状) 円形を呈する。(規模) 長径155.1cm、短径145.2cm、深さ52.0cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

6号土坑

(位置) C-8グリッド。(形状) 不正円形を呈する。(規模) 長径248.1cm、短径211.6cm、深さ130.3cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

7号土坑

(位置) E-7グリッド。(形状) 円形を呈する。(規模) 長径61.4cm、短径59.6cm、深さ77.6cmを測る。(遺物) 縄文土器片が1点出土した。(時期) 出土遺物から縄文時代であろう。

8号土坑

(位置) F-7グリッド。(形状) 柄円形を呈する。(規模) 長径89.5cm、短径68.8cm、深さ26.1cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である

9号土坑

(位置) F-7グリッド。(形状) 不整円形を呈する。(規模) 長径(215.3)cm、短径219.2cm、深さ93.0cmを測る。(遺物) 二次加工のある砂岩製の剥片が出土している。(時期) 遺物から縄文時代と考えられる。

10号土坑

(位置) F-7グリッド。(重複) 11号土坑、12号土坑を切る。(形状) 円形(?)を呈する。(規模) 長径96cm、短径?、深さ48cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。(備考) 11号、12号土坑の覆土内に作られていたため、正確な形状は不明である。覆土からは焼土が検出されており、全体的に熱を受けてボソボソであった。

11号土坑

(位置) F-7グリッド。(重複) 10号土坑に切られる。(形状) 柄円形を呈する。(規模) 長径?、短径161cm、深さ81cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

12号土坑

(位置) F-7グリッド。(重複) 10号土坑に切られる。(形状) 柄円形を呈する。(規模) 長径?、短径124cm、深さ104cmを測る。(遺物) 縄文時代中期の土器片が1片出土している。(時期) 出土遺物から縄文時代中期に比定されよう。

3. その他の遺構

1号溝

(位置) C-3・4・5・6・7・8グリッド。(重複) 2号溝、5号溝に切られている。(形状) 等高線に対し並行するように、東西方向には一直線に走っている。(規模) 長さ51.1m、幅(西端)135cm、(中央)205cm、(東端)160cm、深さ(西端)21.3cm、(中央)19.7cm、(東端)21.5cmを測り、調査区外にも続いている。(遺物) 繩文土器や土師器などが数点検出されている。(時期) 不明である。(備考) 溝の西部では断面を見ると(第3図)、底部に近い部分に細かい土層の堆積がみられ、第4層、第5層では硬化面が明瞭に見られた。この二つの層

については人為的な堆積とみることができるであろう。

2号溝

(位置) C-4、D-4、E-4、F-5・6グリッド。(重複) 1号溝を切る。(形状) C-4グリッドからD-4グリッドまでは南北に真っ直ぐに走っているが、F-5グリッドからは北東方向に走る。(規模) 調査区内での長さ33.5m、幅(北端)115cm、(中央)58cm、(南端)52cm、深さ(北端)、(中央)21.6cm、(南端)36.1cmを測り、北側については調査区外にも続いていると考えられる。(遺物) 中～近世の土器、近～現代の陶磁器などが覆土上部から出土している。(備考) E-4グリッドで途切れている形になっているが、形状や覆土がそれぞれ同様の傾向をもつたため、同一遺構と考えた。底部が四角い形状から時期的には新しいものであることは間違いないが、時期の決め手になるような遺物などもなく用途についても不明である。

3号溝

(位置) E-4、E-5、E-6、D-6グリッド。(形状) 北西から南西方向には一直線を呈する。底部には不整形のピットがいくつか認められる。(規模) 長さ23.3m、幅(西端)54cm、(中央)52cm、(東端)76cm、深さ(西端)10cm、(中央)15cm(東端)8cmを測る。(遺物) 石鎚や土師器などが数片検出されている。23は黒色土器の口縁部から崩壊にかけての破片である。口縁部が真っ直ぐに立ち上ることや玉縁化していないことなどから、甲斐型編年Ⅳ～Ⅷ期に併存すると考えられる。24は縄文時代の石鎚である。基部については両者とも欠けてしまっている。(時期) 不明である。

4号溝

(位置) D-4・5グリッド。(形状) 東西方向には一直線を呈する。(規模) 長さ11.4m、幅(西端)59cm、(中央)121cm、(東端)78cm、深さ(西端)14cm、(中央)23cm、(東端)14cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

5号溝

(位置) C-3、C-4グリッド。(重複) 1号溝を切る。(形状) 南北には真っ直ぐに走っているが、西側にやや曲がっていく。(規模) 長さ4.8m、幅(北端)24cm、(中央)58cm、(南端)69cm、深さ(北端)4.5cm、(中央)6.4cm、(南端)8.2cmを測る。(遺物) 出土していない。

6号溝

(位置) D-7グリッド。(形状) 南北方向にはほぼ直線に走っている。(規模) 長さ9.1m、幅(北端)24cm、(中央)50cm、(南端)33cm、深さ(北端)7cm、(中央)12cm、(南端)7cmを測る。(遺物) 出土していない。

7号溝

(位置) D-5グリッド。(形状) 東西方向にはほぼ直線に走っている。(規模) 長さ5.9m、幅(西端)41cm、(中央)58cm、(東端)45cm、深さ(西端)24.1cm、(中央)21.5cm、(東端)10.2cmを測る。(遺物) 出土していない。

1号炭焼窯

(位置) D-4グリッド。(形状) 調査区内では半楕円形を呈する。3段のテラスからなり、階段状になっている。(時期) 現代である。(備考) 窯の焼き口部に降りるために入り口部があり、3段のテラスを階段状に構築している。地元の方の話によれば、40年ほど前につくられ、20年ほど前まで使用されていたようである。調査前の現況は、入り口部から焼き口部までは完全に土で埋まっていた。燃焼部については完全には埋まっていなかったものの、瓦礫や木の枝などで覆われていた。

1号組石遺構

(位置) C-8グリッド。1号溝東端の覆土上部につくられている。(形状) 東西方向に2本の列状に石を配置している。(規模) 北側の列の長さが229cm、南側の列の長さが251cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。1号溝の覆土の上につくられていることから1号溝よりは新しい。(備考) 北側の列は砾の上面の高さがほぼそろっており、2列が対応する内側の面がきれいにそろうのに対し、南側の列は石の上面の高さがまちまちで、内側の面もそろわず、石同士の間が所々開くなとの違いがある。南側の石列は砾が原位置を留めていない可能性もある。2本の石列は東に行くほど両者の間隔が狭まる。石列の内側からは硬面や水の違った形跡は認められなかったことから、道路状遺構や水路跡ではないことは明らかであるが、用途は不明である。

3. 遺構外出土遺物

10は中期中葉の浅鉢の口縁部である。11はパネル文をもつ藤内式の胴部である。12~15は、櫛齒状工具により網目文が描かれた曾利V式の胴部である。同一個体と考えられる。16は微隆起線による懸垂文が施されており、中期後半と考えられる。18、19は須恵器窓の胴部である。

平安時代の所産である。20、21は巾世~近世の所産である。21は内耳土器の破片である。22は羽甌である。26~30は打製石斧である。30は擬形であるが他のものについては短冊形を呈する。31は横刃形石器、32~38は二次調整のある剣片である。40は磨石である。四面の内磨り痕の無い二面は、凹石として利用している。

第2節 まとめ

縄文時代の住居跡は1軒しか検出されなかつた。1号住居跡は、出土遺物から縄文時代中期中葉藤内式期の住居と判明したが、この時期の住居跡としては遺物の量が少ないので特徴である。細かい破片をあわせて全部で6個体の土器しか出土しておらず、復元できたものについては2個体しかない。また石圓炉の中から焼土が検出されず、火焼面も検出されていない。遺物量の多さ、炉の使用の度合、立替の痕跡など住居の長期的な利用を測る指標はいくつかあるが、1号住居跡については短期的な利用を想定させる事象が多い。

調査区内で検出された住居はこの1軒のみであり、他に住居跡は検出されていない。遺構外からの出土した遺物を見ても、中期中葉と判別された土器は2点しか出土していないことから、周辺に藤内式期の住居跡が存在している可能性は低い。これらのことから1号住居跡は一時的な居住地であった可能性が高い。

溝については、7条が検出されたものの、すべて時期用途とともに不明であった。しかし2号溝が地境の位置にあたるとの話もあることから、今後聞き取り調査や古い地図と照合するなどして、これらの溝についても歴史的意義を解明していきたい。

1号炭焼窯は、地域の方の話からおよそ20年ぐらいた前まで使われていたことが分かった。実際に調査区内から検出されたのは焼き口への入り口部分だけである。

昭和20年代全県下で炭窯数は5250基ほどあったとされる(長坂町誌編纂委員会 1990)。特に日野地区はかつては「日野のクヌギ黒炭」等一等着炭の窯地として良く知られ、炭窯による木炭の生産が盛んに行われていたようである。炭焼きの時期は農閑期である晩秋から早春ごろまでであった。木炭はエネルギー源として利用されていただけでなく、薪の温度創いに使われるなど、各種の生産と密接に関わるものであった。かつての盛行は現在では見る影もなく、様々な代替エネルギーの登場とともに炭焼きは行わなくなってしまった。炭窯自体も現在さまざまな開発や土地改良に伴い消滅しつつある。山村の生活を支えた歴史的資料として、記録に残していく必要があるのではないだろうか。

第4章 上日野C遺跡

第1節 遺構と遺物

1. 土坑

1号土坑

(位置) B-7グリッド。(形状) 楕円形を呈する。(規模) 長径156cm、短径94cm、深さ71cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

2. 溝

1号溝

(位置) A-4、B-4、C-4・5・6・7グリッド。(形状) A-4、B-4、C-4グリッドまでは南北に延びているが、そこから東に向を変え、C-7グリッドまで延びている。断面の形状は、上層からは緩やかに切り込まれるもの、中心部ではさらに一段深くなる。(規模) 長さ45m、幅(南端) 127cm、(中央) 135cm、(東端) 114cm、深さ(南端) 51cm、(中央) 87cm、(東端) 102cmを測る。調査区外まで延びていると考えられる。(遺物) 覆土上部より近現代の瓦が出土している。(時期) 出土遺物から近代以降のものであろう。

2号溝

(位置) B-2・3・4グリッド。(形状) 東西方向に真っ直ぐに走る。(規模) 長さ21.8m、幅(西端) 52cm(中央) 83cm、(東端) 79cm、深さ(西端) 5cm、(中央) 23cm、(東端) 13cm。(遺物) 寛永通寶6枚(第12回10~15)がまとまって出土した。(時期) 不明である。(備考) 嵌密に見ると4条の溝である。しかし壁もくつついてしまっており、分けることが難しかったため、ここでは1条の溝とした。4本の溝が平行することや、深さも10cm前後と浅いことから、かつて畑地であったときの軌跡である可能性が高い。古銭が6枚まとまって出土し、六文銭の可能性があったが、上部に土坑があったかどうかは確認できなかった。

3号溝

(位置) B-2・3グリッド。(形状) 北西方向には一直線に走っている。(規模) 長さ9.5m、幅(西端) 49cm、(中央) 52cm、(東端) 32cm、幅(西端) 8cm、(中央) 16cm、(東端) 6cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

4号溝

(位置) A-4、B-4・5・6グリッド。(形状) 縦

やかにカーブをしながら南西→北東方向に走る。(規模) 長さ22.5m、幅(南端) 164cm、(中央) 123cm、(東端) 155cm、深さ(南端) 20cm、(中央) 60cm、(東端) 54cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

5号溝

(位置) B-5・6・7グリッド。(形状) 一部南側の掘り込みが確認されず、段切り状を呈する。(規模) 長さ20.1m、幅(西端) 27cm、(中央) 60cm、(東端) 34cm、深さ(西端) 16cm、(中央) 18cm、(東端) 15cmを測る。(遺物) 出土していない。(時期) 不明である。

3. 遺構外出土遺物

1は面部にハの字文が施されている。曾利V式。2~4は打製石斧、5~7は横刃石器、8は不定形石器、9は二次調整のある黒曜石製の剥片である。

第2節まとめ

上日野C遺跡からは、土坑1基、溝5条が検出された。遺物も少ないとから、ほとんどの遺構については時期が判別できなかった。1号溝の年代が近現代であるの他の溝についても同時期である可能性が高い。

溝の用途については、根切り溝、畑の区画溝、畑の鉢などいくつか想定はされるが、今回の調査では分からぬことが多い。今後聞き取り調査や、古い図面などから日野地区の土地利用の変遷をたどりながら、これらの溝についても用途を確定していき、本遺跡の歴史的な意義を解明していきたい。

参考文献

大山柏・竹下次作・井山佐重 1941『山梨県日野春村

長坂上条発掘調査報告』『史前学雑誌』13-3
史前学会

小宮山隆 1996『北村遺跡』長坂町教育委員会

長坂町誌編纂委員会 1990『長坂町誌』下巻 長坂町
野代幸和 1997『酒呑場遺跡(第1・2次)』(遺構編)

山梨県教育委員会

平野修 1985『根古屋遺跡』白州町教育委員会

保坂康夫 1997『酒呑場遺跡(第3次)』(遺構編一前編)
山梨県教育委員会

保坂康夫 1997『酒呑場遺跡(第3次)』(遺構編一後編)
山梨県教育委員会

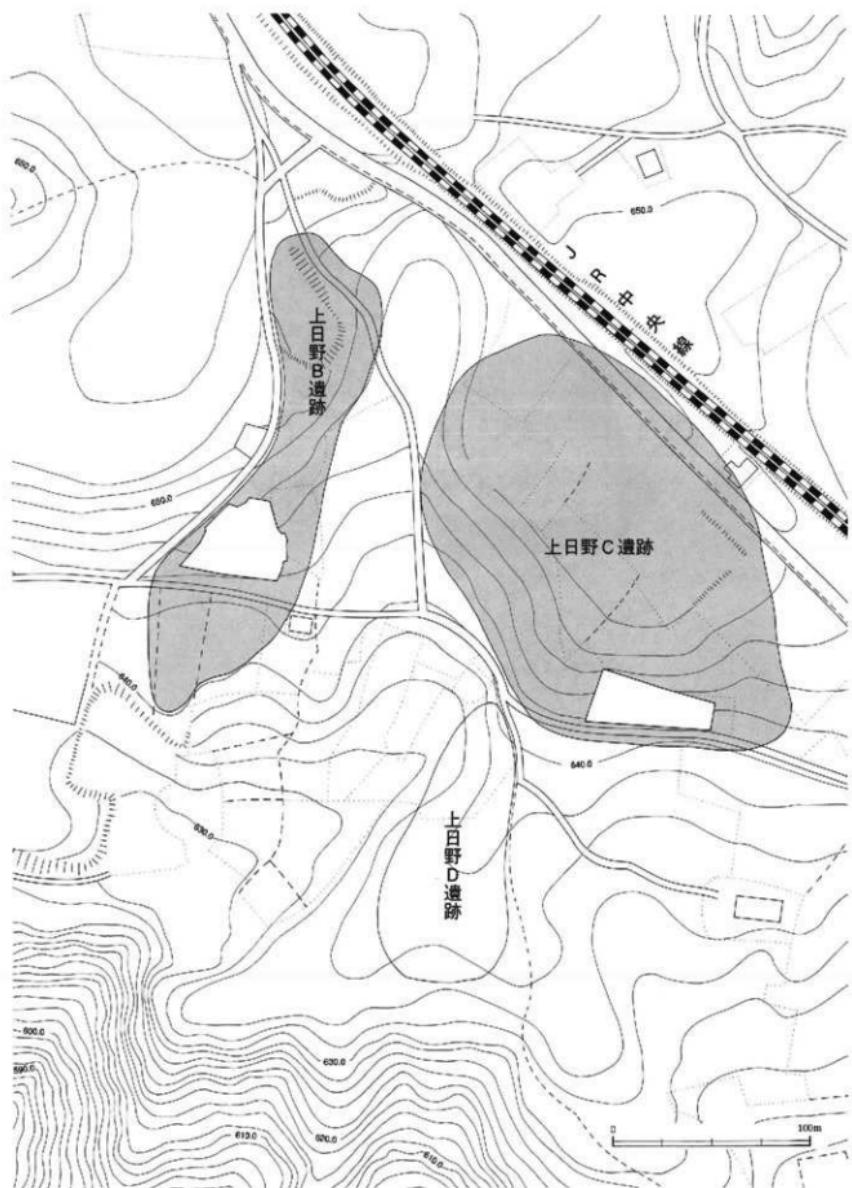
宮沢富美恵 1999『炭焼き』『山梨の歴史景観』山梨郷土
研究会編山梨日々新聞社



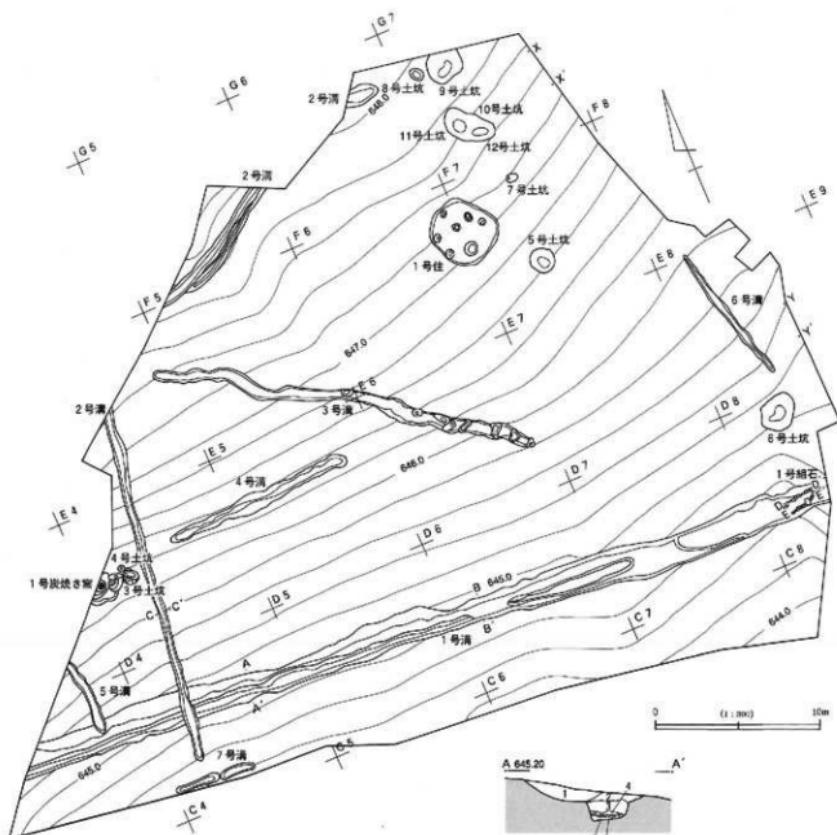
第1図 上日野B遺跡・上日野C遺跡周辺の遺跡分布図

第1表 周辺遺跡分布一覧

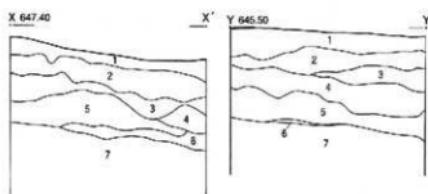
城山上古遺跡 河 平 中 江戸	189 沢山中古遺跡 村 平	172 大久保遺跡 棚	17 桐原遺跡 棚 平 幸
城山遺跡 河 幸	141 行方遺跡 村 幸	174 佐々木遺跡 棚	47 中田遺跡 棚 幸
丸山遺跡 河 幸	142 植田氏遺跡 村 幸	175 利田遺跡 棚 幸	48 菊の井1遺跡 棚 幸
丸久保遺跡 河 幸	143 下原敷石遺跡 國	176 古庭牧場遺跡 棚	49 菊の井2遺跡 棚 幸
清山古墳群南側の史跡群 同	144 月置遺跡 幸	179 上町遺跡 棚	67 鹿民野遺跡 幸
福久保遺跡 國	146 三ヶ島山地2 古	180 下原敷石遺跡 棚 幸	
赤堀古墳群 砂岩 箕 幸 幸	147 高森然松谷遺跡 國	184 七北之原遺跡 棚 幸	幸(?)
東村日吉遺跡 幸 幸 幸	148 二ツ山遺跡 幸	185 七北之原2遺跡 棚 幸	27 中村遺跡 中
東村日吉遺跡 幸 幸 中 江戸	149 二ツ山古墳1 幸	186 山本遺跡 棚	28 下河遺跡 中
中村遺跡 古 幸 幸 中 江戸	150 清ノ平新村北古墳群 幸	187 北村東遺跡 棚 幸	29 西久保A遺跡 中 近世
解田遺跡 幸 幸	151 斎平1号墳 道 合 幸	188 大久保遺跡 棚 幸	30 加上八幡遺跡 棚 中 近世
志村遺跡 古 幸 幸 中 江戸	152 内山下原遺跡 棚	190 佐久平遺跡 棚 幸	31 板上八幡遺跡 中 近世
牛反遺跡 犬 手	153 佐久平日吉遺跡 棚	191 清水北山遺跡 棚 幸	32 西久保B遺跡 幸 幸
民谷遺跡 幸 幸 幸	154 佐久平伊豆遺跡 河 幸	192 清水北山2遺跡 棚 幸	33 佐久平2遺跡 幸 幸
山口北遺跡 古 幸	155 山口北遺跡 棚 幸	193 下原遺跡 棚	34 山田C遺跡 中 近世
原野遺跡 河 幸	156 二日入遺跡 棚 幸	199 下原遺跡 棚	35 山田C遺跡 中 近世
上久保北遺跡 幸 幸	★157 上日野B遺跡 棚 幸	200 下日入遺跡 棚	36 朝日二門里遺跡 中 近世
古久保遺跡 幸	★158 上日野C遺跡 棚 幸	206 美坂上遺跡 網原遺跡	37 霜雲寺遺跡 棚
今度遺跡 棚 幸	159 古久保遺跡 古 江戸	208 清遠遺跡 石肝山 遺跡	38 国府山遺跡 棚 幸
大久保遺跡 古 幸	160 古久保遺跡 古 江戸	209 上日野D遺跡 棚	39 鹿民野遺跡 幸
反田遺跡 河 幸 幸	167 西原遺跡 古	白山町	40 鹿民野遺跡 幸
三沢川遺跡 中 江戸	169 鳥居西遺跡 棚 幸 幸 幸	13 中台1遺跡 棚 幸	41 新御古道跡 棚 幸
北村遺跡 棚 幸 幸	170 鳥居西遺跡 棚 幸 幸	15 古吉遺跡 棚 幸	42 金子4号古道跡 中 近世
熊野遺跡 棚 幸	171 長坂上桑原遺跡 棚 幸 幸	16 長坂上桑原遺跡 棚 幸 幸	43 下田山遺跡 中 近世



第2図 上日野B遺跡・上日野C遺跡周辺の地形と調査区の配置



上日野B遺跡全体図



基本層序

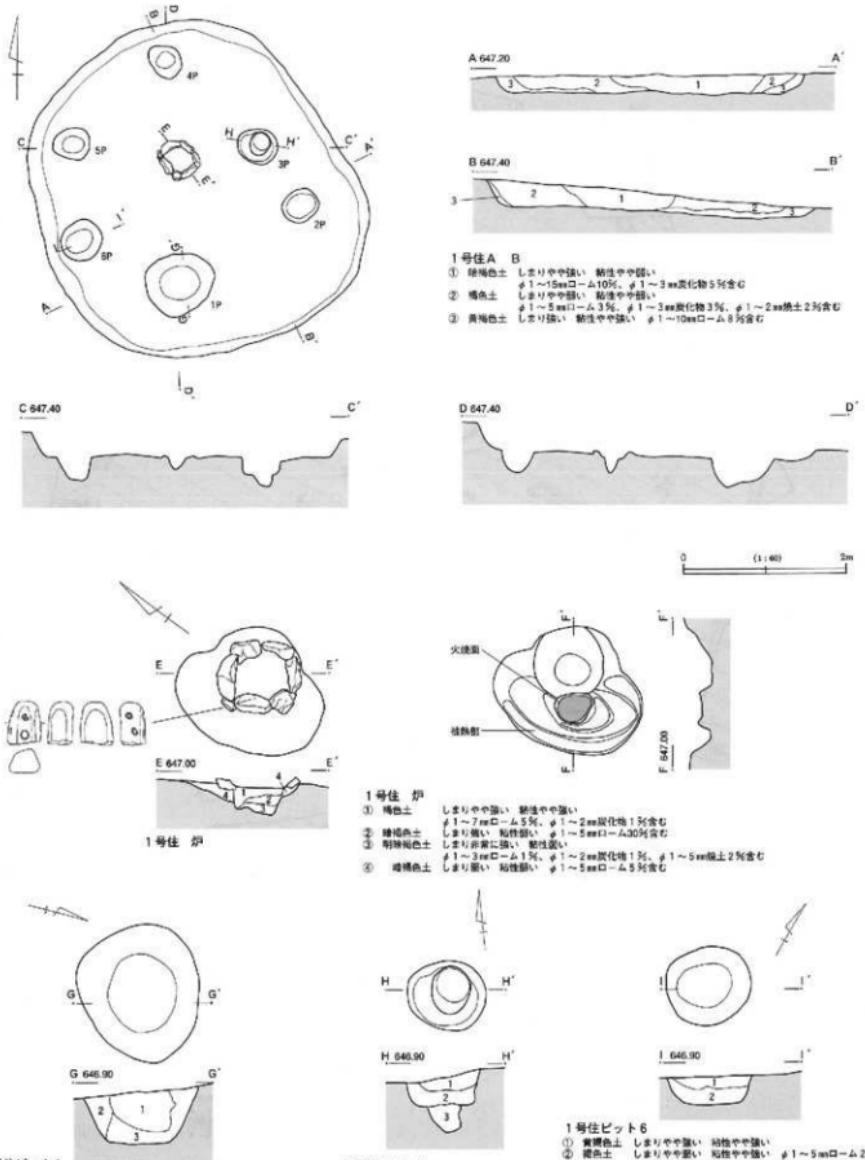
- ① 黒褐色土 しまり非常に悪い、粘性弱い $\phi 1\sim3\text{mmローム}2\%$ 含む
- ② 黄土 しまりやや強い、粘性弱い
- ③ 明褐色土 しまり弱い、粘性弱い $\phi 1\sim10\text{mmローム}10\%$ 含む
- ④ 黄褐色土 しまり弱い、粘性やや弱い $\phi 10\sim60\text{mmローム}90\%$ 含む
ハーフロームとは違う
- ⑤ 黄褐色土 しまり弱い、粘性弱い $\phi 10\sim20\text{mmローム}60\%$ 含む
- ⑥ 黄土 しまり弱い、粘性非常に強い、シルトを含む
- ⑦ 灰褐色土 しまり非常に弱い、粘性強い、粘土、塊山

- 1号溝A
- ① 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い $\phi 1\sim5\text{mmローム}2\%$ 含む
 - ② 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い $\phi 1\sim3\text{mmローム}2\%$ 含む
 - ③ 明褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い $\phi 1\sim10\text{mmローム}10\%$ 含む
 - ④ 黑褐色土 しまり非常に弱い、粘性弱い $\phi 1\sim5\text{mmローム}2\%$ 含む
 - ⑤ 黄褐色土 しまり非常に弱い、粘性弱い $\phi 1\sim10\text{mmローム}3\%$ 含む
 - ⑥ 明褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い $\phi 1\sim5\text{mmローム}10\%$ 含む

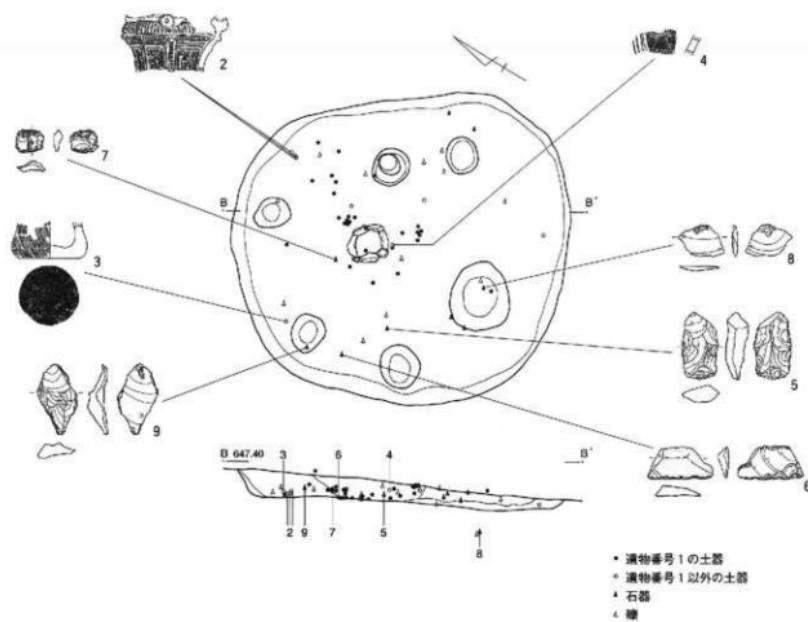
- 1号溝B
- ① 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い $\phi 1\sim5\text{mmローム}3\%$ 、 $\phi 1\text{mm炭化物}1\%$ 含む
 - ② 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い $\phi 5\sim10\text{mmローム}7\%$ 、 $\phi 1\sim5\text{mmローム}2\%$ 、 $\phi 1\text{mm炭化物}2\%$ 含む
- C 645.90
- 2号溝
- ③ 灰褐色土 しまり弱い、粘性弱い $\phi 1\sim5\text{mmローム}15\%$ 含む
粘土と思われる

0 (1:100) 2m

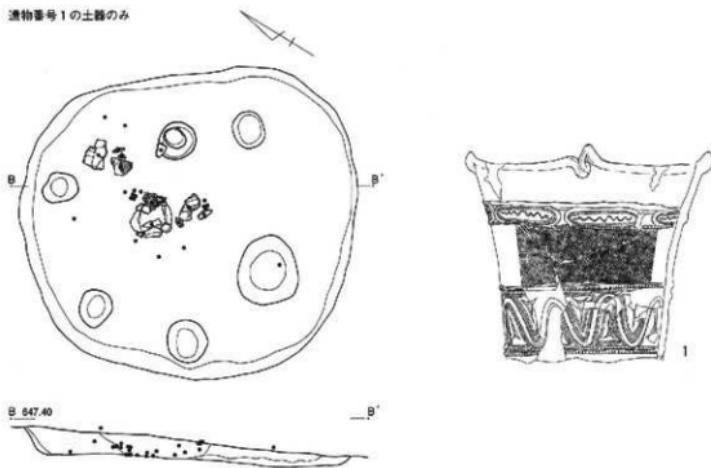
第3図 上日野B遺跡全体図、基本層序、1号・2号溝セクション図



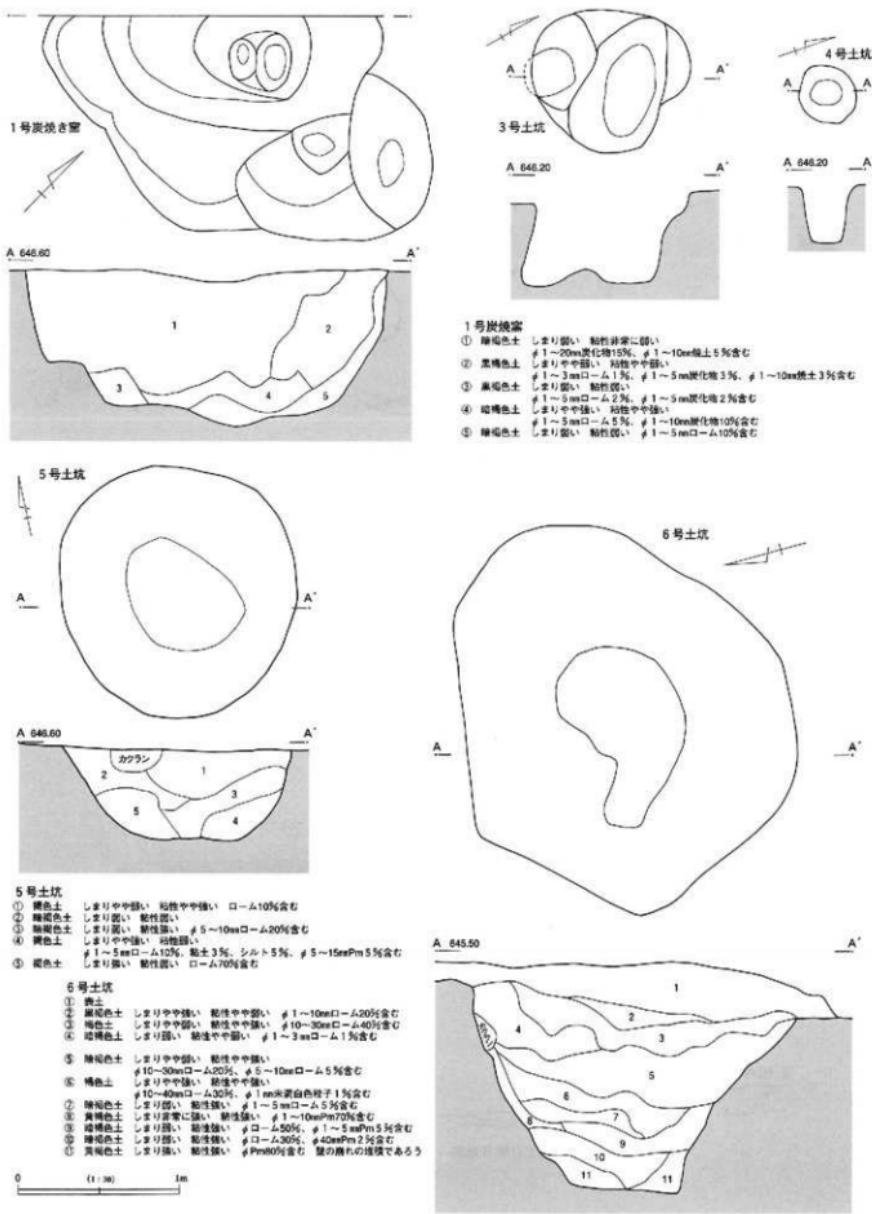
第4図 上日野B道路 1号住居跡



遺物番号1の土器のみ

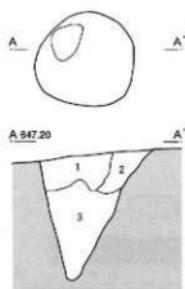


第5図 上日野B遺跡 1号住居跡遺物出土状況

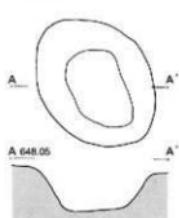


第6図 上日野B遺跡 1号炭焼窯、3号～6号土坑

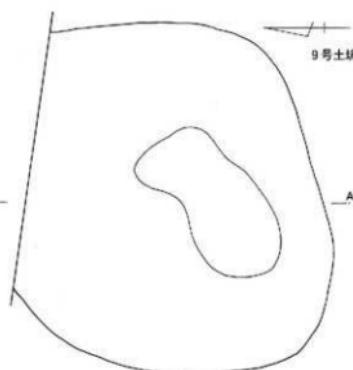
7号土坑



8号土坑



9号土坑

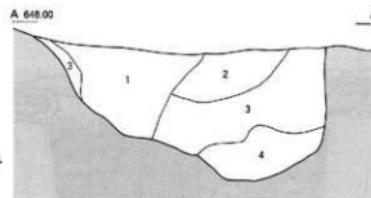


7号土坑

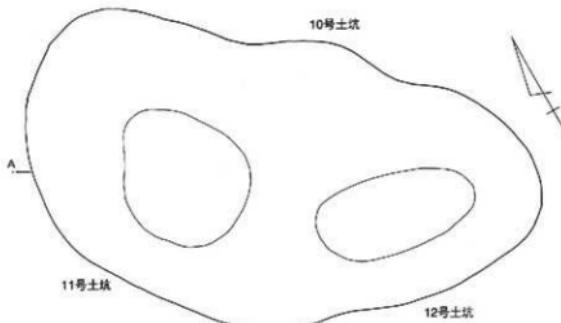
- ① 黒褐色土 しまり悪い、粘性弱い、 $\phi 1\sim10\text{mm}\text{ローム}2\% \text{含む}$
- ② 黄褐色土 しまりやや悪い、粘性やや弱い、 $\phi 1\sim2\text{mm}\text{ローム}1\%$ 、 $\phi 1\sim2\text{mm}\text{炭化物}5\%$ 、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{PM}1\% \text{含む}$
- ③ 雜褐色土 しまり弱い、粘性強い、 $\phi 5\sim10\text{mm}\text{ローム}1\% \text{含む}$

9号土坑

- ① 黒褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{ローム}20\%$ 、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{炭化物}5\% \text{含む}$ 、最近の擾乱
- ② 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{ローム}15\%$ 、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{炭化物}3\% \text{含む}$
- ③ 雜褐色土 しまり弱い、粘性非常に弱い、 $\phi 10\text{mm}\text{ローム}5\% \text{含む}$
- ④ 雜褐色土 しまり弱い、粘性非常に弱い、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{ローム}2\% \text{含む}$



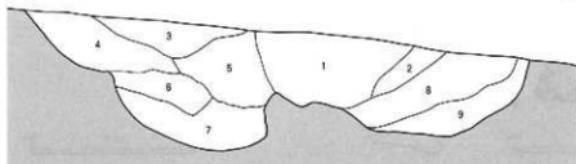
10号土坑



10・11・12号土坑

- ① 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性非常に弱い、 $\phi 1\sim5\text{mm}\text{ローム}3\%$ 、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{粘土}1\% \text{含む}$
- ② 雜褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、 $\phi 1\sim10\text{mm}\text{ローム}1\%$ 、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{粘土}1\% \text{含む}$
- ③ 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性弱い、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{ローム}5\%$ 、 $\phi 1\sim7\text{mm}\text{炭化物}5\%$
- ④ 黄褐色土 しまり弱い、粘性弱い、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{ローム}2\%$ 、 $\phi 1\sim2\text{mm}\text{炭化物}1\% \text{含む}$
- ⑤ 雜褐色土 しまり弱い、粘性弱い、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{ローム}1\%$ 、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{粘土}5\% \text{含む}$
- ⑥ 黄褐色土 しまり弱い、粘性弱い、 $\phi 1\sim7\text{mm}\text{ローム}5\% \text{含む}$
- ⑦ 黄褐色土 しまりやや弱い、粘性やや弱い、 $\phi 1\sim3\text{mm}\text{ローム}2\%$ 、 $\phi 1\sim2\text{mm}\text{炭化物}3\% \text{含む}$
- ⑧ 雜褐色土 しまり弱い、粘性弱い、 $\phi 5\sim10\text{mm}\text{ローム}2\%$ 、 $\phi 5\sim10\text{mm}\text{粘土}1\% \text{含む}$
- ⑨ 黃褐色土 しまり弱い、粘性弱い、 $\phi 3\sim5\text{mm}\text{ローム}2\%$ 、 $\phi 3\sim10\text{mm}\text{粘土}2\%$

A 647.80

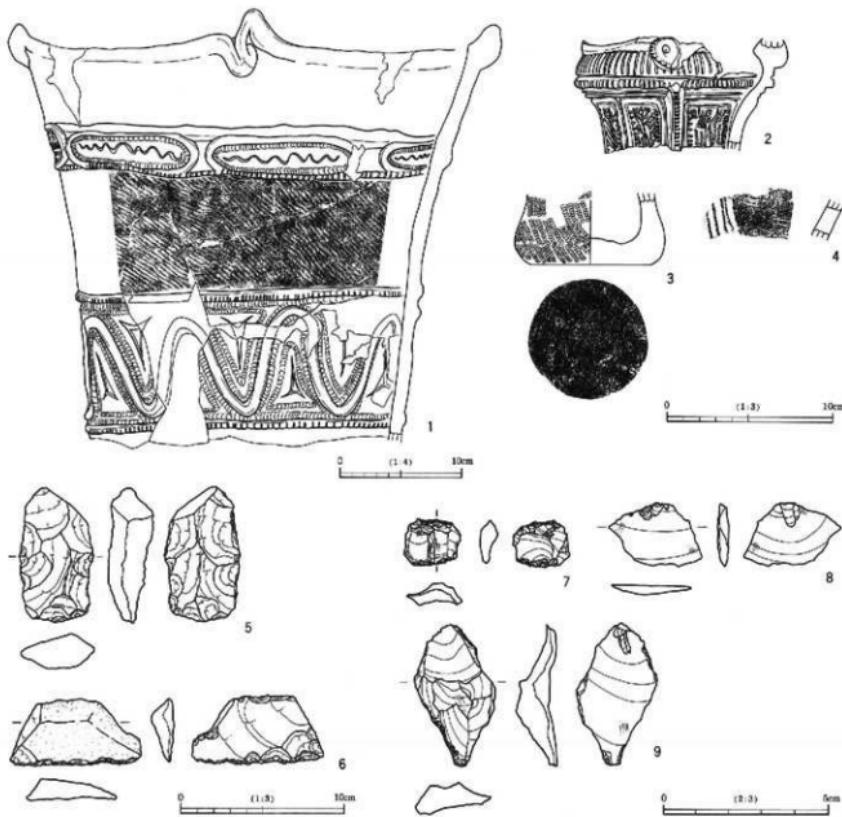
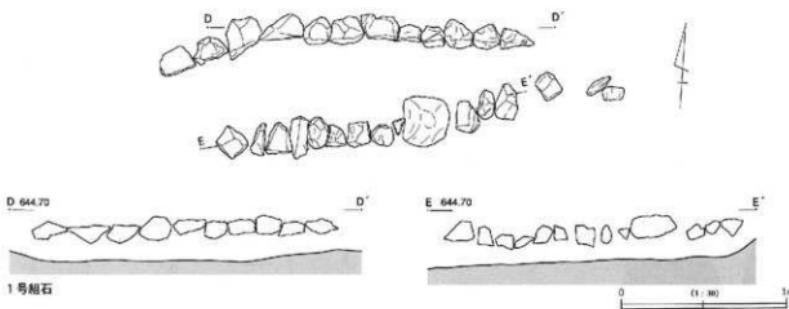


10号土坑・11号土坑・12号土坑

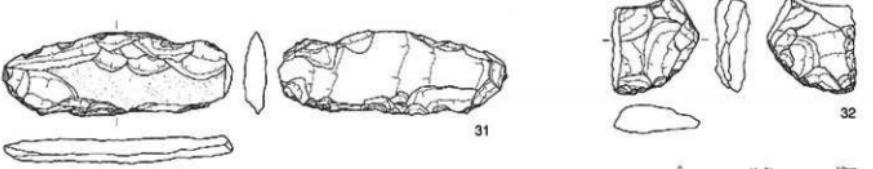
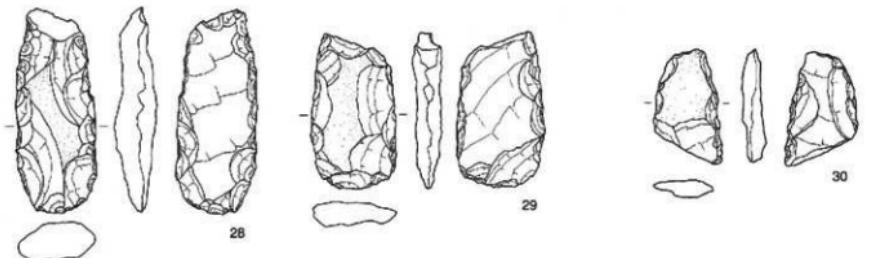
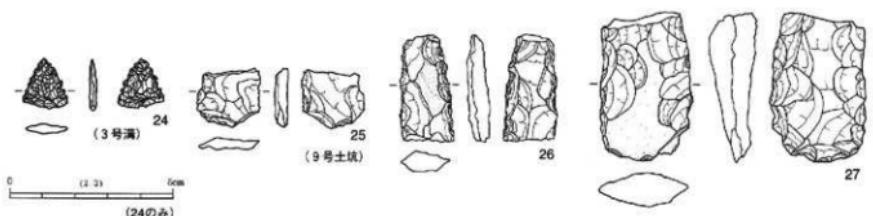
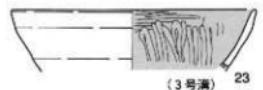
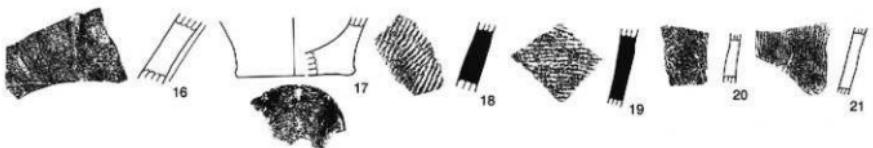
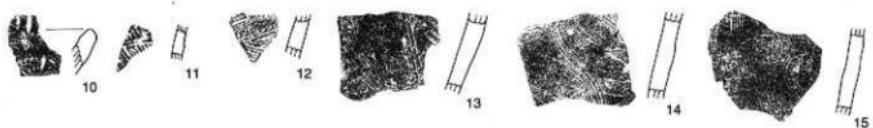
A'

0 (1:50) 1m

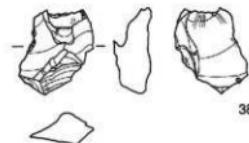
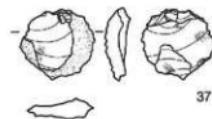
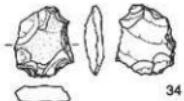
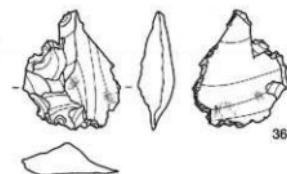
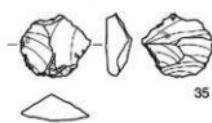
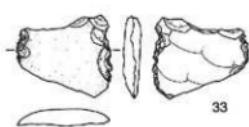
第7図 上日野B遺跡 7号～12号土坑



第8図 上日野B遺跡粗石遺構 1号住居跡出土土器・石器

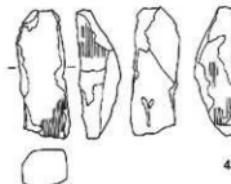
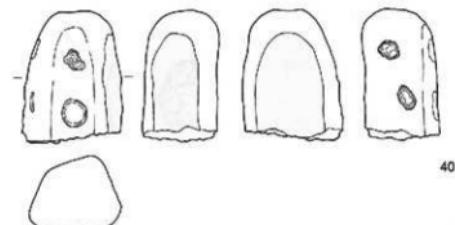
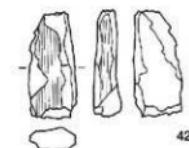
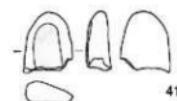
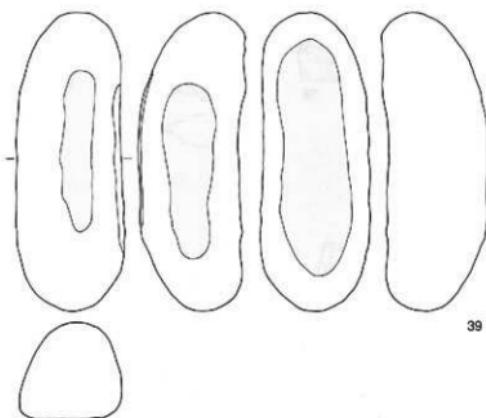


第9図 上日野B遺跡 出土土器・石器(1)



0 (1:3) 10cm

0 (2:3) 5cm



0 (1:3) 10cm

第10図 上日野B遺跡 出土石器（2）

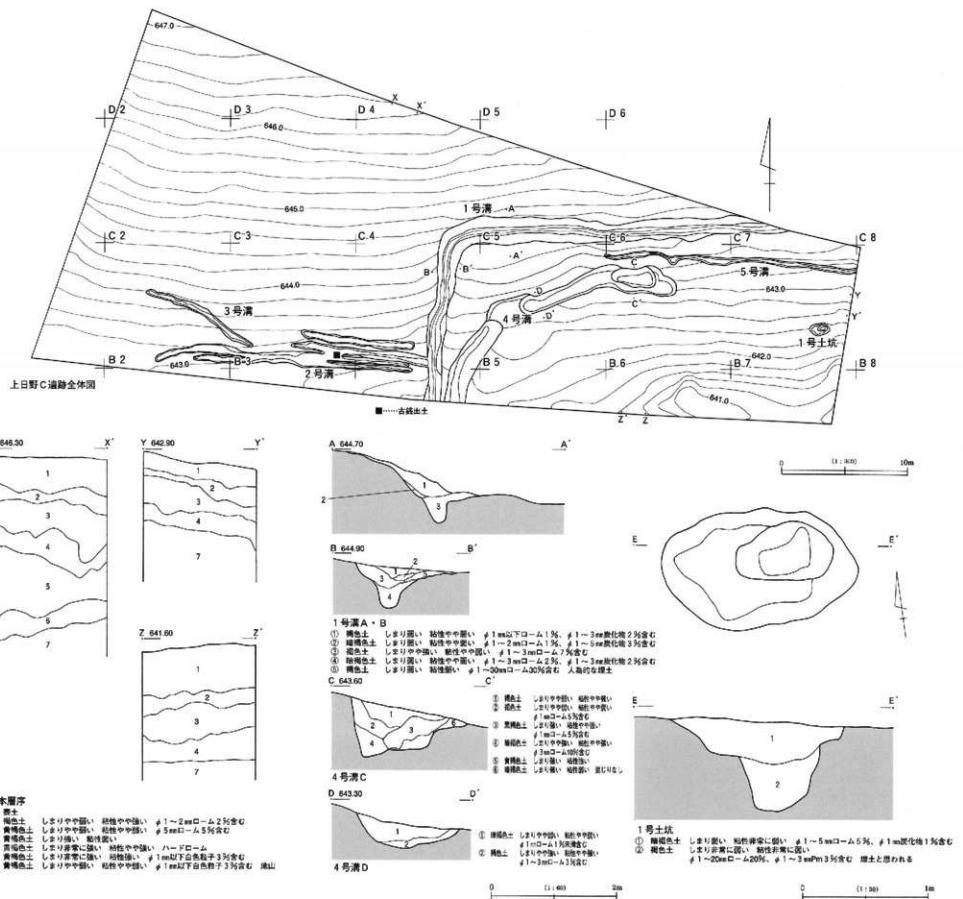
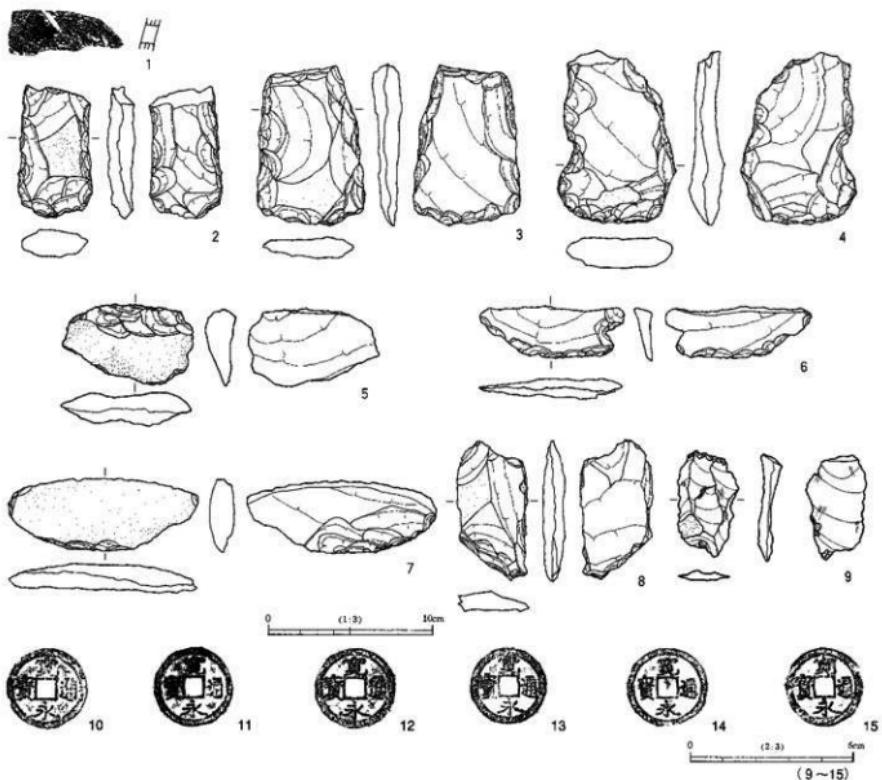


図114 上日野C遺跡全体図、基本層序、1号溝・4号溝セクション図、1号土坑



第12図 上日野C遺跡 遺構外出土土器・石器

第2表 上日野C遺跡出土土器集計表

	A-04	B-04	C-03	C-04	C-05	C-06	合計
縄文		3					3
平安	1	1					2
中一五世					1	1	
近代以降	2		1	1	1		3
不明			1		1		1
合計	3	4	2	1	1	1	12

第3表 上日野C遺跡土器観察表

遺物番号	遺物番号	出土位置	形	時代	時期	分類	器形	部位	重量	地	上	色	面	測量
第12回	1	遺構外	縄文	中期後半		陶器	瓶		23.8	淡灰	石、白色粒子、深色粒	外:にぼい縁 内:縦		

第4表 上日野C遺跡石器観察表

遺物番号	遺物番号	出土位置	形	大きさ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量	材	付	種
第12回	2	遺構外	打制石斧	(8.1)	4.6	1.7	70.8	砂岩		
第12回	3	遺構外	打制石斧	(9.9)	6.6	1.8	110.3	カルシンフェルス		
第12回	4	遺構外	打制石斧	(10.6)	7.1	2.1	148.4	カルシンフェルス		
第12回	5	遺構外	刮削器	4.9	8.0	1.8	76.9			練習石器の本製品か?
第12回	6	遺構外	刮削器	3.2	8.8	1.1	30.2	砂岩		ドリル (?)
第12回	7	一筋	磨光石斧	4.3	11.4	1.6	104.8	磨灰岩		一筋久保
第12回	8	一筋	刮削器	8.6	4.4	1.4	46.9	頁岩		一次調査あり
第12回	9	遺構外	刮削器	3.3	1.9	0.7	2.3	高嶺石		二次調査あり

() は既存値を表示

第5表 上日野B遺跡出土土器集計表

第6表 上日野B遺跡土器観察表

正直音書	物語番号	出上文號	字	代	序	部	類	形	部位	通鑑	脚	十	角	肉	骨	清	重
第8回	1	1号位	本文		中附中集	詠林	口唇→喉頭	5742.9	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉						
第5回	2	1号位	本文		中附中集	詠林	山嘴→喉頭	50.9	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	外:赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	
第5回	3	1号位	本文		中附	詠林	喉頭	喉部	75.2	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉	外:に bei 肉 内:肉、咽、喉
第8回	3	1号位	本文		中附	詠林	喉頭	喉部	368.9	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔
第8回	4	1号位	本文		中附後半	詠林	喉部	31.0	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	10	漢奸外	本文		中附中集	詠林	口唇	10.7	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	11	漢奸外	本文		中附中集	詠林	喉頭	喉部	5.6	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	外:赤色粘子、肉	赤色粘子、肉	赤色粘子、肉
第9回	12	漢奸外	本文		中附后半	詠林	喉部	7.8	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	13	漢奸外	本文		中附后半	詠林	喉部	43.3	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:ドド	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:ドド	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	14	漢奸外	本文		中附後半	詠林	喉部	33.3	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:イシ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:イシ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	15	漢奸外	本文		中附後半	詠林	喉部	41.1	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:イシ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:イシ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	16	漢奸外	本文		中附後半	詠林	喉部	68.1	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:肉 内:微	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:肉 内:微	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	18	漢奸外	平安		假忠賊	變	西部	28.6	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:肉 内:オリーブグリ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:タクメ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	19	漢奸外	平安		假忠賊	變	喉部	27.6	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:假忠賊、肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:假忠賊、肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	20	唐僧外	中~近世			詠林		13.4	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	21	唐僧外	中~近世		上部脣	丸牙唇	脣部	16.6	舌石、石类、黑色粘子、黑色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:に bei 肉	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	22	道場外	平安		上部脣	羽茎	脚部	31.4	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:脚、黑 内:カーリング	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:ロクタナナ 内:ロクタナナ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	
第9回	23	3号渡	平安		上部脣	平	口唇→喉頭	31.7	舌石、石类、黑唇等、赤色粘子	舌石、舌石子、舌苔	外:に bei 肉 内:黑	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	外:ロクタナナ 内:ロクタナナ	舌石、舌石子、舌苔	舌石、舌石子、舌苔	

第7表 上日野B遺跡石器観察表

層級番号	波御番号	出土地位置	器 体	横長度 (m)	最大幅 (m)	最大厚 (m)	項 量	内 容	備 現
第8回	5	1号位	打製石斧	(8.3)	(4.5)	2.8	86.4	花崗岩	
第8回	6	1号位	磨光石器	4.1	8.0	1.4	40.9	ホルンフェニックス	
第8回	7	1号位	石削器	1.5	1.7	0.6	1.3	黒曜石	
第8回	8	1号位	刮削器	2.0	2.9	0.4	1.8	黒曜石	二次調査あり
第8回	9	1号位	刮削器	4.4	2.5	1.2	6.8	黒曜石	アリカ(?)
第9回	24	3号位	石鑿	(1.5)	(4.4)	0.2	0.5	黒曜石	一部欠損
第9回	25	9号位	刮削器	(2.6)	3.8	0.9	12.3	砂岩	次調査あり
第9回	26	追跡者	打製石斧	(6.6)	3.3	1.3	33.6	ホルンフェニックス	
第9回	27	追跡者	打製石斧	(9.3)	(5.7)	(2.9)	155.8	砂岩	
第9回	28	追跡者	打製石斧	12.6	5.0	2.6	159.1	石製刃	
第9回	29	追跡者	打製石斧	(9.5)	(5.3)	1.9	113.4	麻灰岩	
第9回	30	追跡者	打製石斧	(7.1)	(4.3)	1.6	88.6	ホルンフェニックス	
第9回	31	裏格物	磨光石器	5.1	14.0	1.7	114.9	頁岩	
第9回	32	裏格物	刮削器	6.0	3.3	2.1	66.6	砂岩	二次調査あり
第10回	33	追跡者	刮削器	5.1	5.9	1.1	32.8	麻灰岩	二次調査あり
第10回	34	追跡者	刮削器	4.4	3.8	1.1	19.8	麻灰岩	二次調査あり
第10回	35	追跡者	刮削器	2.0	2.2	0.8	2.0	黒曜石	二次調査あり
第10回	36	追跡者	刮削器	2.2	2.3	0.8	2.1	黒曜石	不規則あり
第10回	37	追跡者	刮削器	3.7	2.9	1.1	6.9	黒曜石	二次調査あり
第10回	38	追跡者	刮削器	2.7	2.3	1.1	5.0	黒曜石	二次調査あり
第10回	39	追跡者	磨石	18.4	6.8	6.6	1233.0	砂岩	
第10回	40	1号位	磨石	(8.1)	6.3	4.7	396.9	砂岩	石製刃の2/4として使用
第10回	41	追跡者	小形磨石	(3.7)	3.0	1.4	20.0	砂岩	二次調査あり
第10回	42	追跡者	槌石	(6.0)	3.0	1.7	39.1		
第10回	43	追跡者	敲正	(7.9)	3.2	2.7	65.1		

（ ）は既存課題を表す



上日野B遺跡遠景（南より八ヶ岳を望む）



上日野B遺跡全景



1号住居跡 完掘状況



1号住居跡 石廻炉



1号住居跡 遺物出土状況①



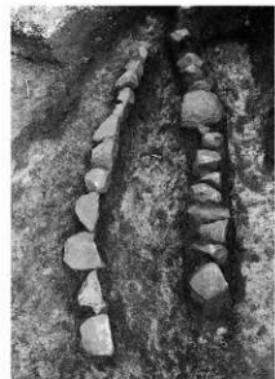
1号住居跡 遺物出土状況②



1号住居跡 遺物出土状況③



1号溝



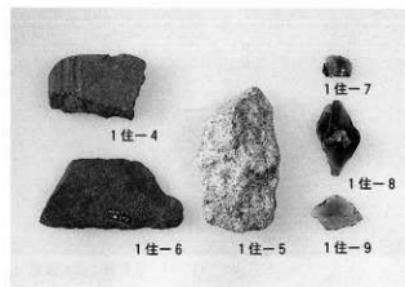
1号石組造構



1号炭焼き窯



1住-1



1住-4

1住-6



1住-7

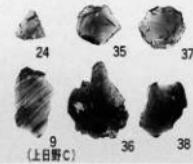
1住-8



1住-2



1住-3



24



35



37

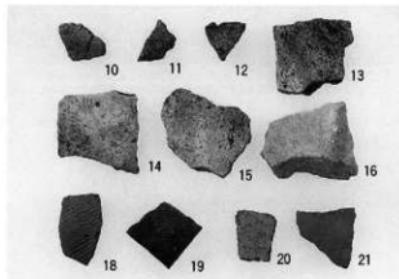
9



36



38



10

11

12



13



14



15



16



18



19



20



21



39



40



41



43

上日野B遺跡 出土土器・石器

図版 4



上日野C遺跡遠景（東より南アルプスを望む）



上日野C遺跡全景

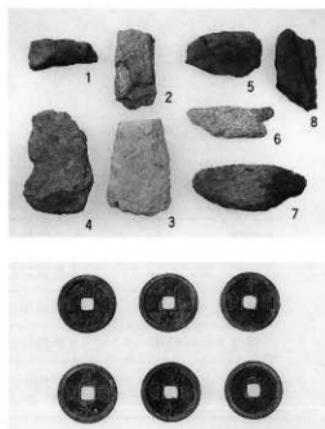
図版 5



1号溝（西から）



1号溝（南から）



上日野C遺跡出土土器・石器・古銭



調査風景



調査風景

報告書抄録

フリガナ	ウワビノビーセキ・ウワビノシーセキ ハックツチョウサホウコクショ
書名	上日野B遺跡・上日野C遺跡 発掘調査報告書
副題	基盤整備促進事業（日野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第27集
著者名	長谷川誠
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19 TEL 0551-32-2111
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5
発行日	2003年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町日野字上日野
遺跡番号	長坂町 No157（上日野B）、No158（上日野C）
1/25,000地図名 位置・標高	若神子 上日野B 北緯35° 47' 50" 東経138° 22' 35" 標高644～648m 上日野C 北緯35° 47' 49" 東経138° 22' 39" 標高641～647m
調査原因	基盤整備促進事業（日野地区）
調査期間	上日野B：2002年12月3日～2002年12月26日 上日野C：2003年1月7日～2003年2月7日
調査面積	上日野B：1,530m ² 上日野C：1,325m ²
主な時代	縄文時代
主な遺構	上日野B：住居跡（縄文時代中期中葉）1軒、土坑11基、溝7条 上日野C：土坑1基、溝5条
主な遺物	上日野B：土器、石器（縄文時代） 土師器、須恵器（平安時代） 内耳鉢、陶磁器（中～近世） 上日野C：土器、石器（縄文時代） 土師器（平安時代） 陶磁器（近世）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書 第27集

上日野B遺跡・上日野C遺跡

2003年3月25日 印刷

2003年3月31日 発行

編集・発行 長坂町教育委員会

〒408-0021 山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575-19

TEL 0551-32-2111 (代)

印 刷 兎灯書籍株式会社

〒381-0012 長野県長野市柳原2133-5

TEL 026-244-0235 (代)

